

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	情報処理Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0293		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	物質化学工学科		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材							
担当教員	河合 孝恵						
到達目標							
(1) プログラミング・実行・デバッグができる (2) プログラム作成において入出力が適切に使える (3) プログラム作成において変数が適切に使える (4) プログラム作成において繰り返し・条件分岐等が適切に使える (5) 配列化等の手法を適切に用いプログラムを作成できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1プログラミング・実行・デバッグができる	プログラミング・実行・デバッグが正確にできる		プログラミング・実行・デバッグができる		プログラミング・実行・デバッグができない		
プログラム作成において入出力が適切に使える	プログラム作成において入出力が適切に正確に使える		プログラム作成において入出力が適切に正確に使える		プログラム作成において入出力が適切に正確に使えない		
プログラム作成において変数が適切に使える	プログラム作成において変数が適切に正確に使える		プログラム作成において変数が適切に正確に使える		プログラム作成において変数が適切に正確に使えない		
プログラム作成において繰り返し・条件分岐等が適切に使える	プログラム作成において繰り返し・条件分岐等が適切に正確に使える		プログラム作成において繰り返し・条件分岐等が適切に使える		プログラム作成において繰り返し・条件分岐等が適切に使えない		
配列化等の手法を適切に用いプログラムを作成できる	配列化等の手法を適切に正確に用いプログラムを作成できる		配列化等の手法を適切に用いプログラムを作成できる		配列化等の手法を適切に用いプログラムを作成できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	プログラミング演習を行い、最終的にオリジナルなプログラムを作成できるようになることを目標とする。 現在、様々なプログラミング言語が存在するが、入出力・繰り返し・条件分岐・変数・配列等はプログラミング言語に共通した概念である。本授業では1つの言語のみを用いるが、将来 他の言語を修得する際にも知識を活用できるよう、言語文法を覚えるだけではなく、概念も理解することを目標とする。						
授業の進め方・方法	教員単独						
注意点	プログラミング演習で用いるProcessing言語は極めて多くの機能を有しているので、各自の創造性を存分に発揮してプログラムを作成すること。 また教科書には基本的な事項しか説明されていないので、他の参考書やインターネットを参考にすること。 授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	プログラミン・Scratchの概要1		プログラムの編集・実行・保存等		
		2週	Scratchの概要2		繰り返し, 条件分岐		
		3週	総合実習		総合実習		
		4週	Processingの概要		プログラムの編集・実行・保存等 プログラムのデバッグ等		
		5週	出力		出力等		
		6週	変数の宣言		変数宣言、変数の種類、変数を使い分ける理由等		
		7週	演算		四則演算、数学関数等		
		8週	制御文1		if文、for文		
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	制御文2		switch case文		
		11週	配列		一次元配列、多次元配列		
		12週	2Dグラフィックス		2Dグラフィックス		
		13週	3Dグラフィックス		3Dグラフィックス		
		14週	総合実習		総合実習		
		15週	期末試験				
		16週	後期末試験の解答・解説 授業評価・アンケート				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験			合計		
総合評価割合		100			100		
基礎的能力		30			30		
専門的能力		70			70		